

スウェーデンと日本の交流は、スウェーデンヒルズ事業の計画段階から始まっています。この街の中心に佇む「スウェーデン交流センター」は、当社の創業を支えたメンバーたちが橋渡し役となり、両国の文化交流や友好を深める拠点として、1986年に開館しました。スウェーデン交流センターとスウェーデンヒルズは、いわば両国をつなぐ歴史の両輪のような関係なのです。

理想の街は、人をつなぐ。

日本とスウェーデンの交流拠点にふさわしい丘。

1976年末から77年初めにかけて、当社創業メンバーが視察のため北欧を訪問した際、当時スウェーデン駐在大使であった都倉栄二氏に大変お世話になりました。都倉氏は帰任後の1978年、現在スウェーデンヒルズのある丘を

画されました。スウェーデン文化に直接触れられる場が日常にあるということは、大切な家族が住まうこの街や住まいのルーツについて、自然に触れたり、考えを深めるきっかけがあることを意味します。今ほどスウェーデンを知る術が少なかった当時、センターの存在は、理想の街を育むために不可欠でした。

レクサンド市との姉妹都市提携、スウェーデン国王の来訪。

スウェーデン交流センターを中心に友好の輪は広がっていきました。1987年には、センターの仲介により、当別町とスウェーデンのレクサンド市が姉妹都市提携を調印。

初めて訪問され、当社創業メンバーと共に「人が人らしく自然と調和して暮らす」という理想のもと、スウェーデン村の実現にご尽力いただくことになったのです。翌年には初めて開催された「スウェーデン北海道産業文化提携会議」のメンバーが当別町を訪問。「ストックホルム郊外によく似ている」この地に両国交流拠点の設置が提案され、1983年に財

以来、教育・文化・スポーツなど多岐にわたって活発な活動が行われています。1990年には、国王カール16世グスタフ陛下の来訪が実現。これを契機として文化交流にさらなる拍車が掛かりました。スウェーデンヒルズで毎年開催される夏至祭やルシア祭は、当別町と町ぐるみのイベントとしてすっかり地元風物詩に。姉妹都市提携30周年の2017年にはレクサンド市長をはじめ60名の訪問団を迎えて様々な記念行事が行われました。

「当別スウェーデンマラソン」初開催。

そして今年、日本とスウェーデンの外交関係樹立150周年。

団法人を設立。1986年には「スウェーデン交流センター」がオープンしました。

街や住まいへの愛着を深めるために。

国と国のつながりも、基本となるのは人と人の心の交流です。スウェーデン交流センターは当初より、暮らしの舞台である街の中に計

その記念すべき年に初開催となったのが「当別スウェーデンマラソン」です。レクサンド市からもランナーを招き、センターがこのレースの栄えあるスタート地点になりました。「木工の技術をマスターして自分の手で椅子を作りたい」「吹きガラスを体験したい」「スウェーデン語を学びたい」…。センターに足を運ぶ理由は人それぞれです。どんな目的であれ、人と人が結びつき互いに刺激を得る場が身近にあることは、コミュニティに潤いをもたらします。移住された方や地元のみなさんのふれあいをスウェーデン文化を通じて温める、スウェーデン交流センターはそんな場にもなっているのです。



札幌の中心部から車で約40分。石狩湾を一望できる丘陵地の変化に富んだ地形と豊かな自然を感じる森に包まれた街、スウェーデンヒルズ。スウェーデンハウスの創設メンバーが掲げた「人が人らしく自然と調和して豊かに暮らす」という理想の街づくりを実現するために、1984年に誕生したスウェーデンハウス発祥の地です。ここには多忙な日々を送る現代が忘れかけていた、大自然を背景に悠々と日常を楽しむ暮らしがあります。詳しくは www.swedenhills.jp または

スウェーデンヒルズ 検索



国と国、人と人をつなげる

一般財団法人

スウェーデン交流センター

スウェーデンと日本の交流を目的に設立。当施設ではガラス工芸工房、木材工芸工場の体験・見学、スウェーデン雑貨の展示販売などを行っています。スウェーデンの生活文化に直接触れるイベントとして、6月/夏至祭、8月/ザリガニパーティー、9月/スールストロミング試食会、12月/ルシア祭などを開催しています。

<http://swedishcenter.or.jp>



スウェーデンの伝統行事「夏至祭」イベント



センターホールではスウェーデン雑貨を展示販売



8月「当別スウェーデンマラソン」を開催



ガラス工芸工房



木材工芸工房